

# 2018年3月期決算説明会

2018年5月16日

日本ヒューム株式会社  
東京証券取引所  
証券コード：5262

1. 会社概要
2. 2018年3月期業績説明
3. 2019年3月期業績予想
4. 新中期経営計画説明

## 1. 会社概要

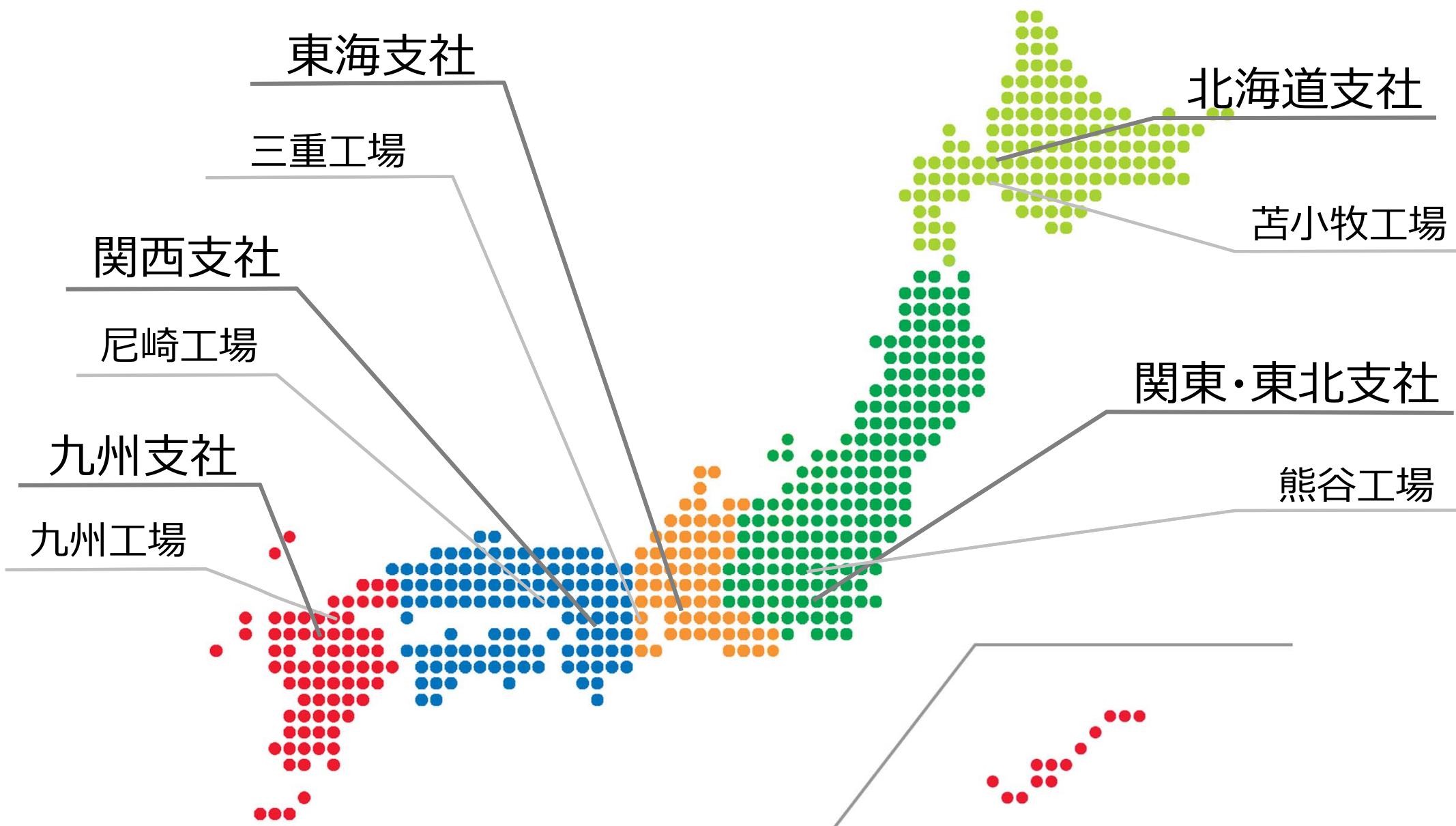
## 2. 2018年3月期業績説明

## 3. 2019年3月期業績予想

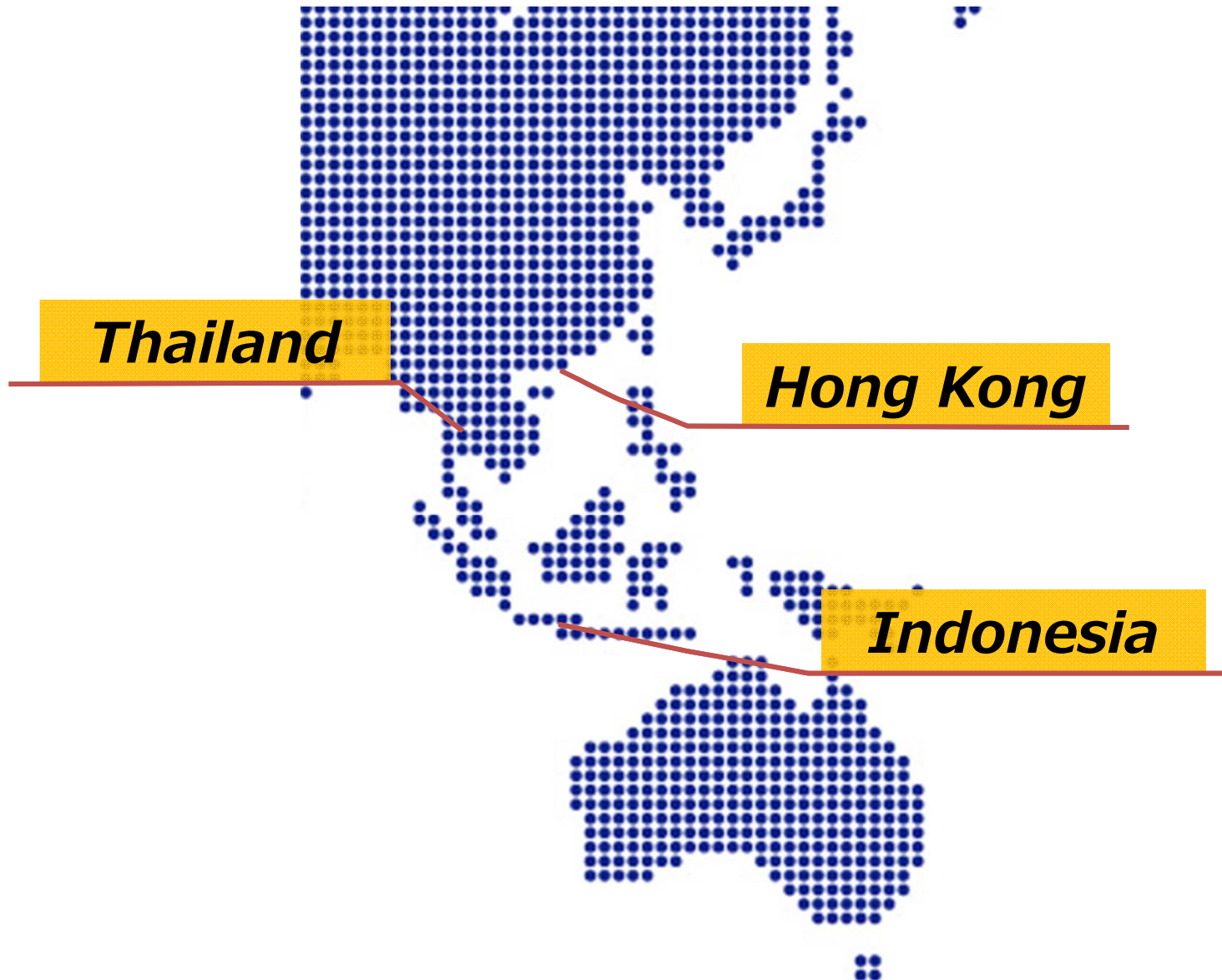
## 4. 新中期経営計画説明

会社名	日本ヒューム株式会社
設立	大正14年(1925年)10月20日
本社	東京都港区新橋5丁目33番地11号
代表者名	大川内 稔
資本金	52億5,140万円(平成30年3月現在)
従業員数	679名(平成30年3月現在)
営業品目	<ul style="list-style-type: none"><li>・コンクリート二次製品の製造、販売</li><li>・工事(杭、下水道関係)</li><li>・不動産</li></ul>

# 営業・製造拠点（国内）



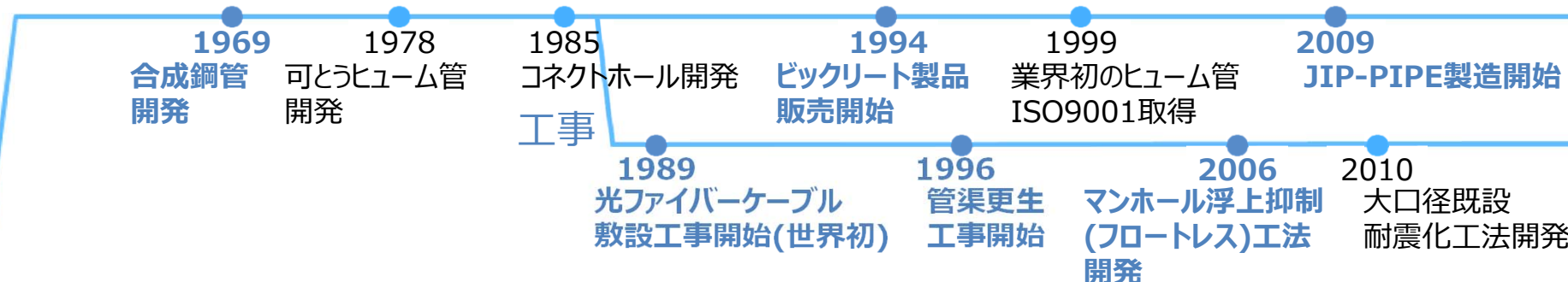
# 営業拠点 (海外)



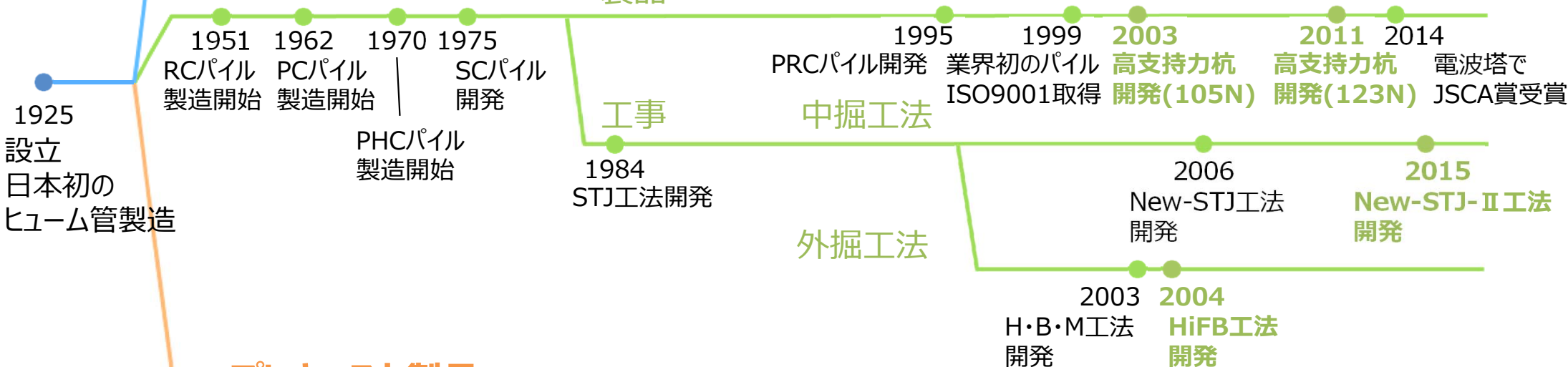
- わが社は、社会基盤の整備に参加し、豊かな人間環境づくりに貢献します。
- わが社は、人の和をはかり、常に従業員の幸福と生き甲斐を求めています。
- わが社は、未来を見つめ、たゆまぬ技術開発により、強い会社を目指します。

# 沿革

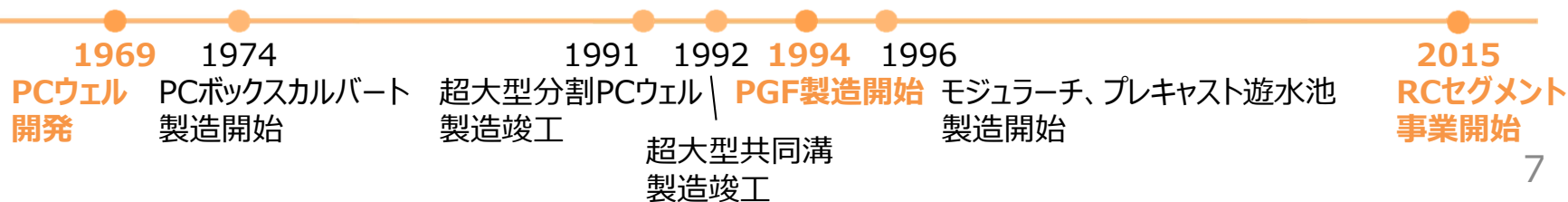
## ヒューム管（下水道）



## パイル（基礎くい）



## プレキャスト製品





## 総合コンクリート、主義

**ヒューム管**  
(コンクリート管)

**パイル**  
(コンクリート基礎くい)

**プレキャスト**  
(工場製コンクリート製品)

# 製品紹介 ～ヒューム管～



## 【主な用途】

下水道、農業用水、工業用水など



地中埋設前のイメージ



超大口徑推進管(直径4m)

# 製品紹介 ～下水道関連工事～



管渠更生工事



光ファイバーケーブル敷設工事



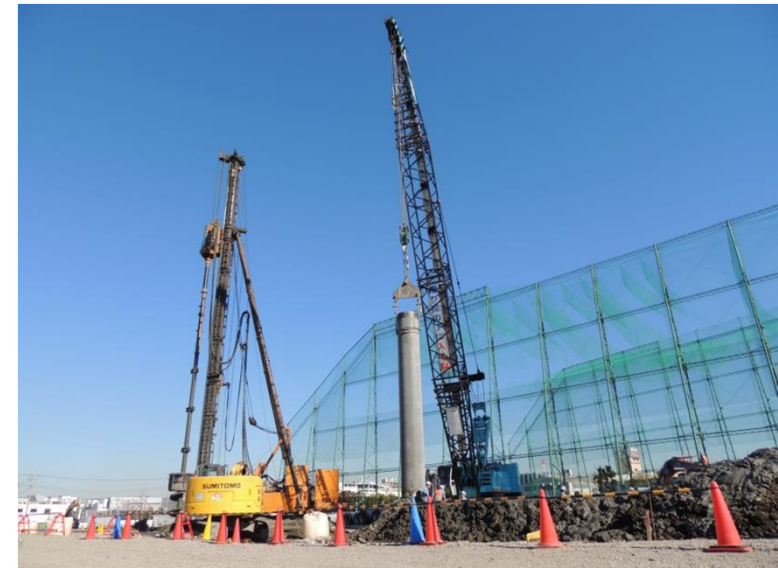
フロートレス工法（マンホール浮上抑制工法）

工事担当：関係会社 日本ヒュームエンジニアリング(株)

# 製品紹介 ～パイル～



既製コンクリートぐい



ぐい施工

# 製品紹介 ～プレキャスト～



PGF  
(プレキャストガードフェンス)



PCウエル

# 製品紹介 ～プレキャスト～



RCセグメント



ボックスカルバート

型枠担当：関係会社 技工曙(株)

連結子会社：11社、持分法適用関連会社：5社

## 【主な子会社の事業内容】

技工曙(株)

<営業品目>

- ・コンクリート製品の型枠  
(自社製作、輸入製品)
- ・鉄工関連製品
- ・編成した鉄筋カゴ

日本ヒュームエンジニアリング(株)

<営業品目>

- 下水道関連の工事
- ・マンホール浮上抑制工事
  - ・管渠更生工事
  - ・光ファイバーケーブル敷設工事

# 事業全体図





1. 会社概要
- 2. 2018年3月期業績説明**
3. 2019年3月期業績予想
4. 新中期経営計画説明

## 連結業績ハイライト

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益(※)  
 において昨年度を上回る結果となった。

(売上高は過去最高額を記録)

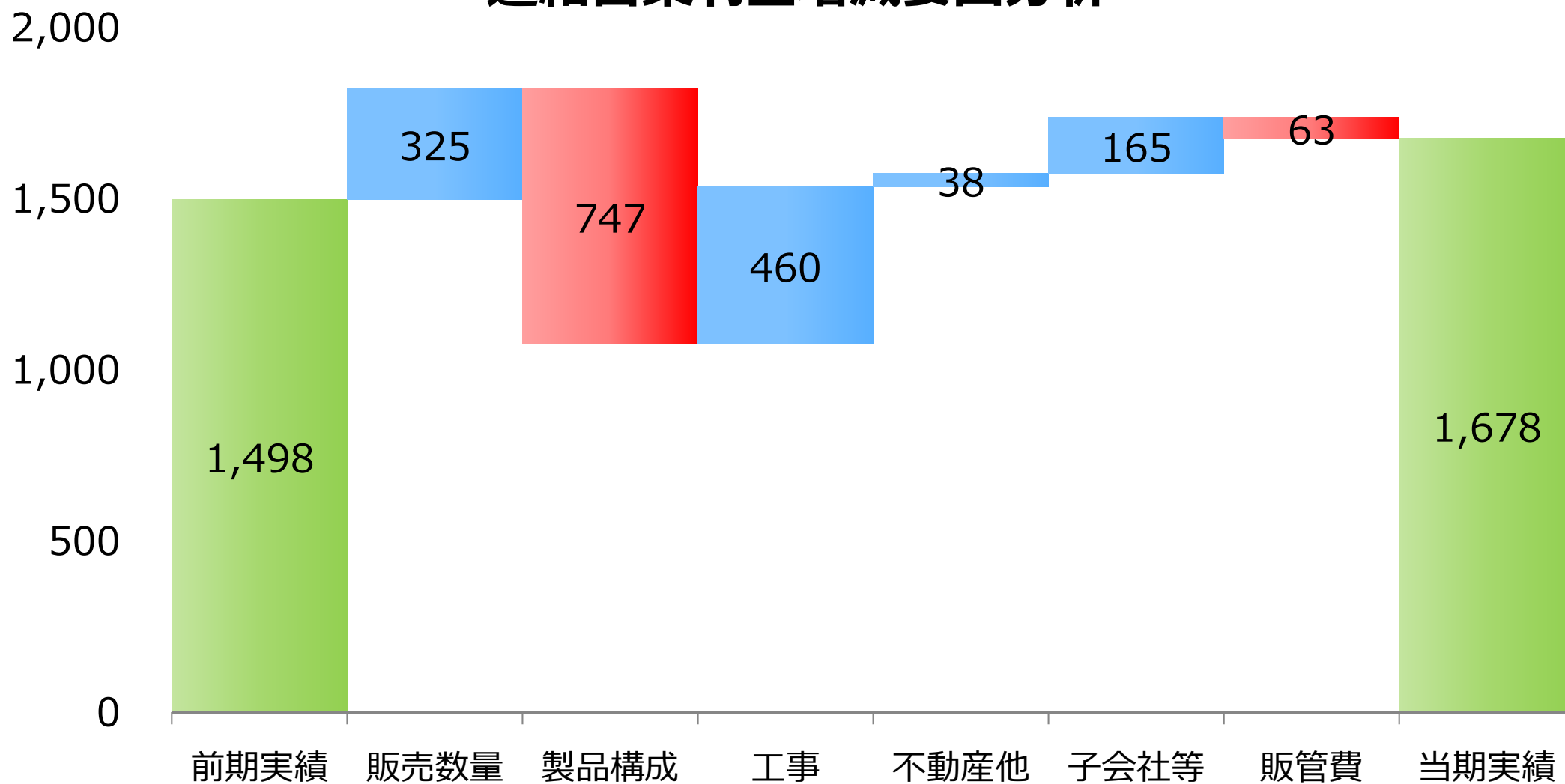
(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	増減額	増減率	公表値
売上高	32,072	37,445	5,373	16.8%	35,000
営業利益	1,498	1,678	180	12.0%	1,800
経常利益	1,958	2,211	252	12.9%	2,200
当期純利益(※)	1,383	1,651	268	19.4%	1,600

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

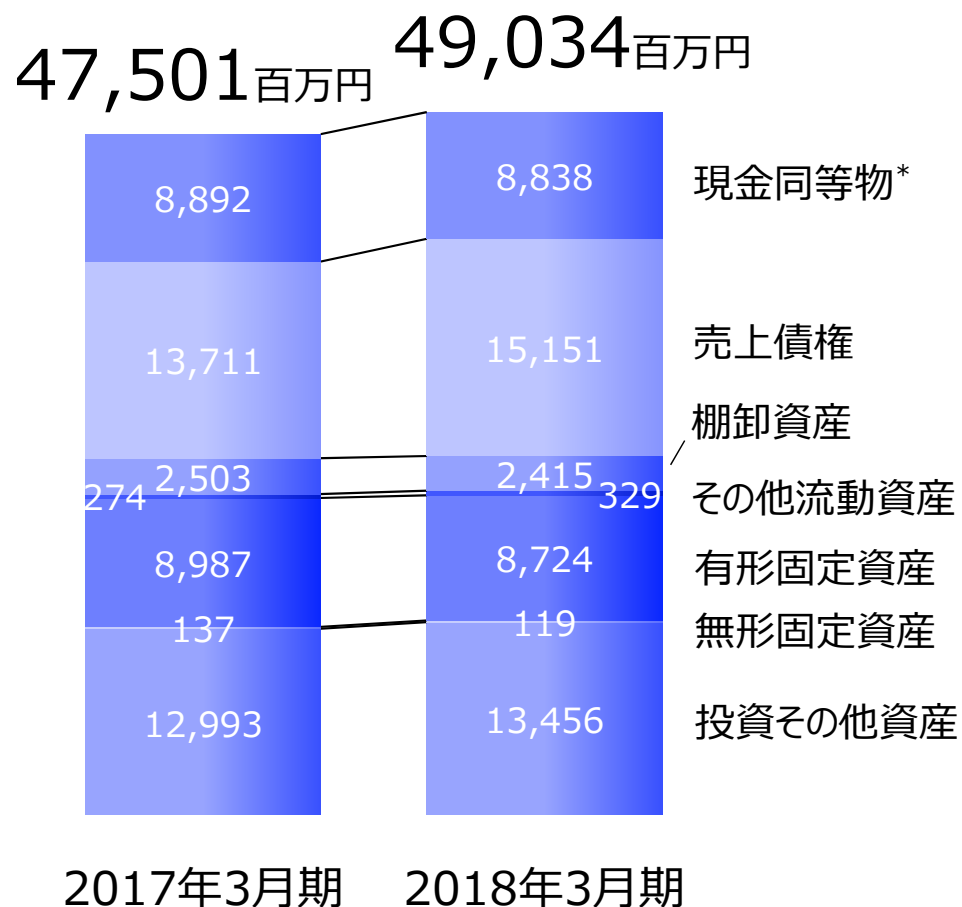
## 連結営業利益増減要因分析

(単位：百万円)

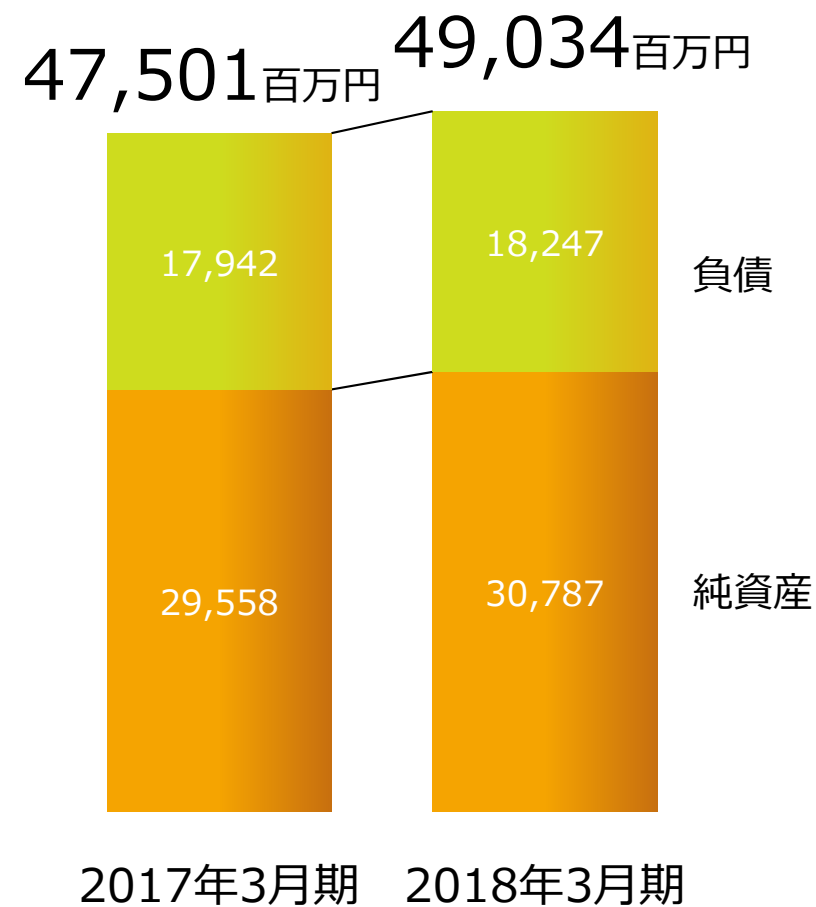


## 連結貸借対照表

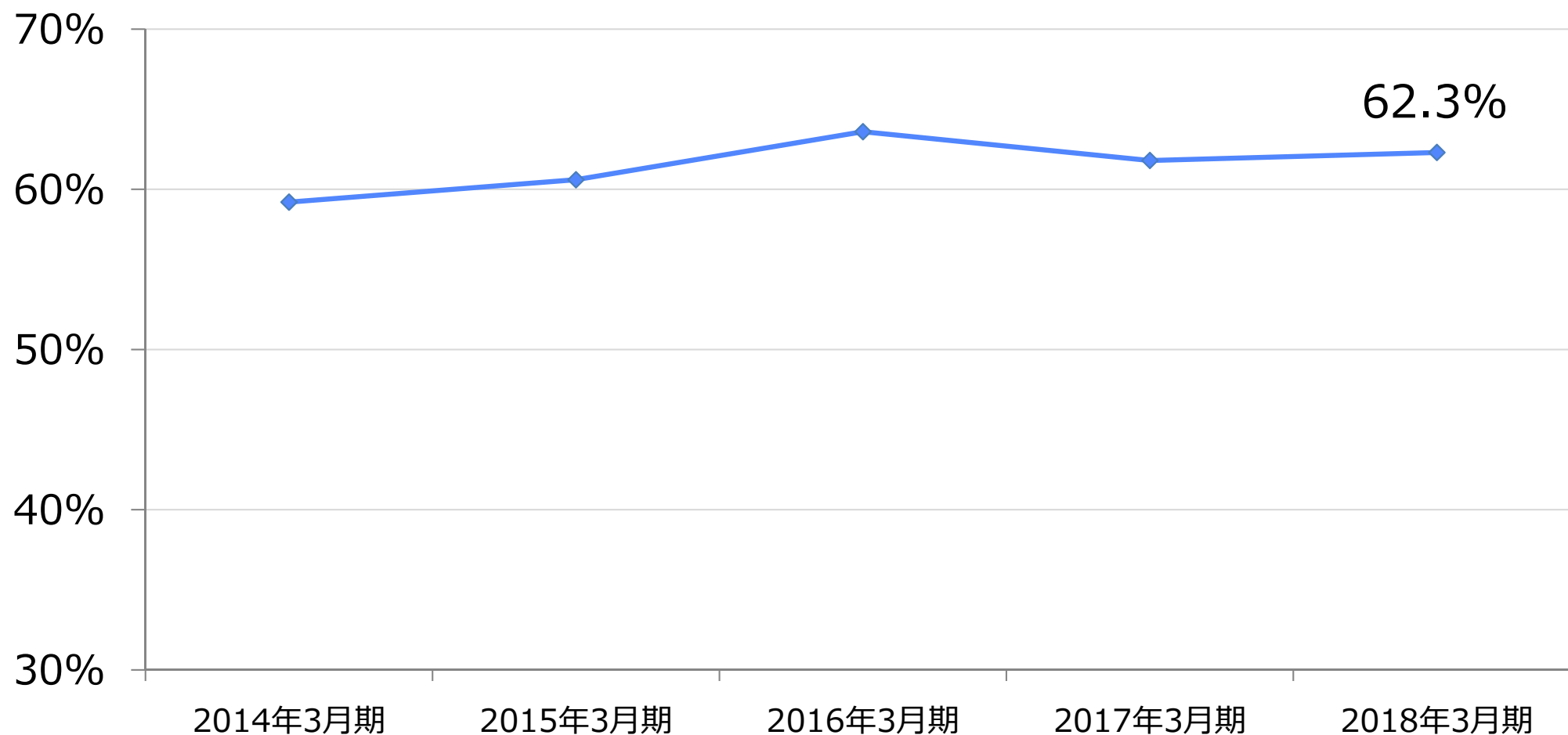
### 資産



### 負債・純資産



## 自己資本比率推移

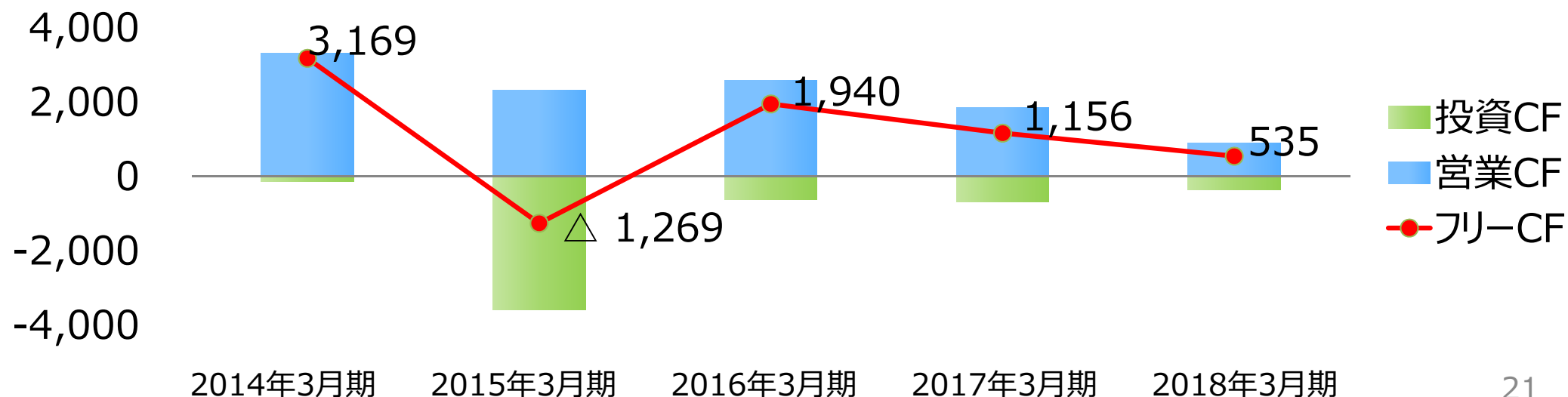


# 2018年3月期業績説明

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,855	899	▲ 956
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 699	▲ 363	335
フリーキャッシュ・フロー	1,156	535	▲ 620
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 607	▲ 598	8
現金及び現金同等物の期末残高	8,836	8,778	▲ 58



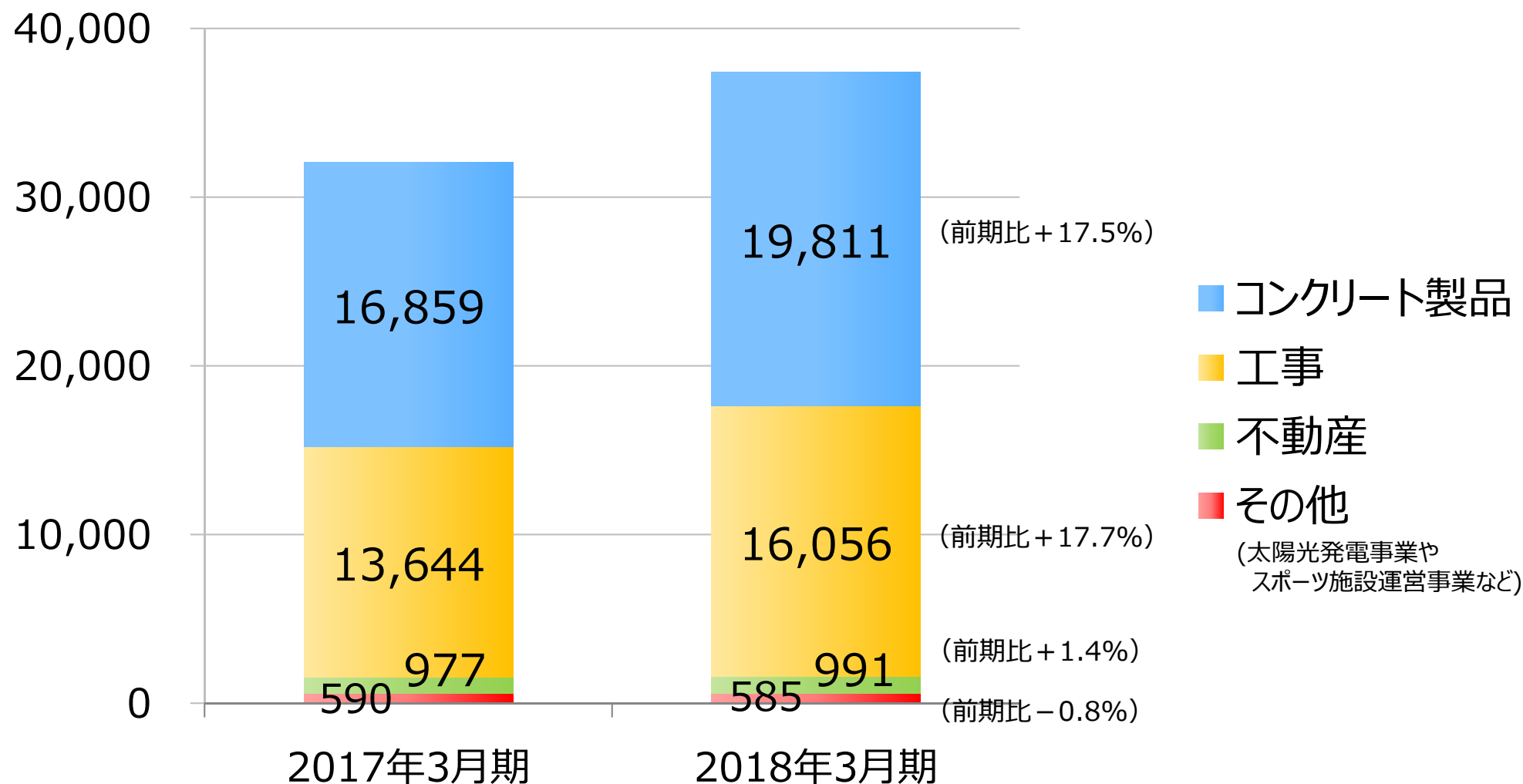
## 設備投資推移

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
合計	372	2,065	498	742	343
コンクリート製品	216	830	388	530	154
工事	81	1	72	42	62
不動産	-	-	27	124	111
太陽光発電所等	-	1,219	-	-	-
全社共通	74	13	10	43	15

## セグメント別売上高

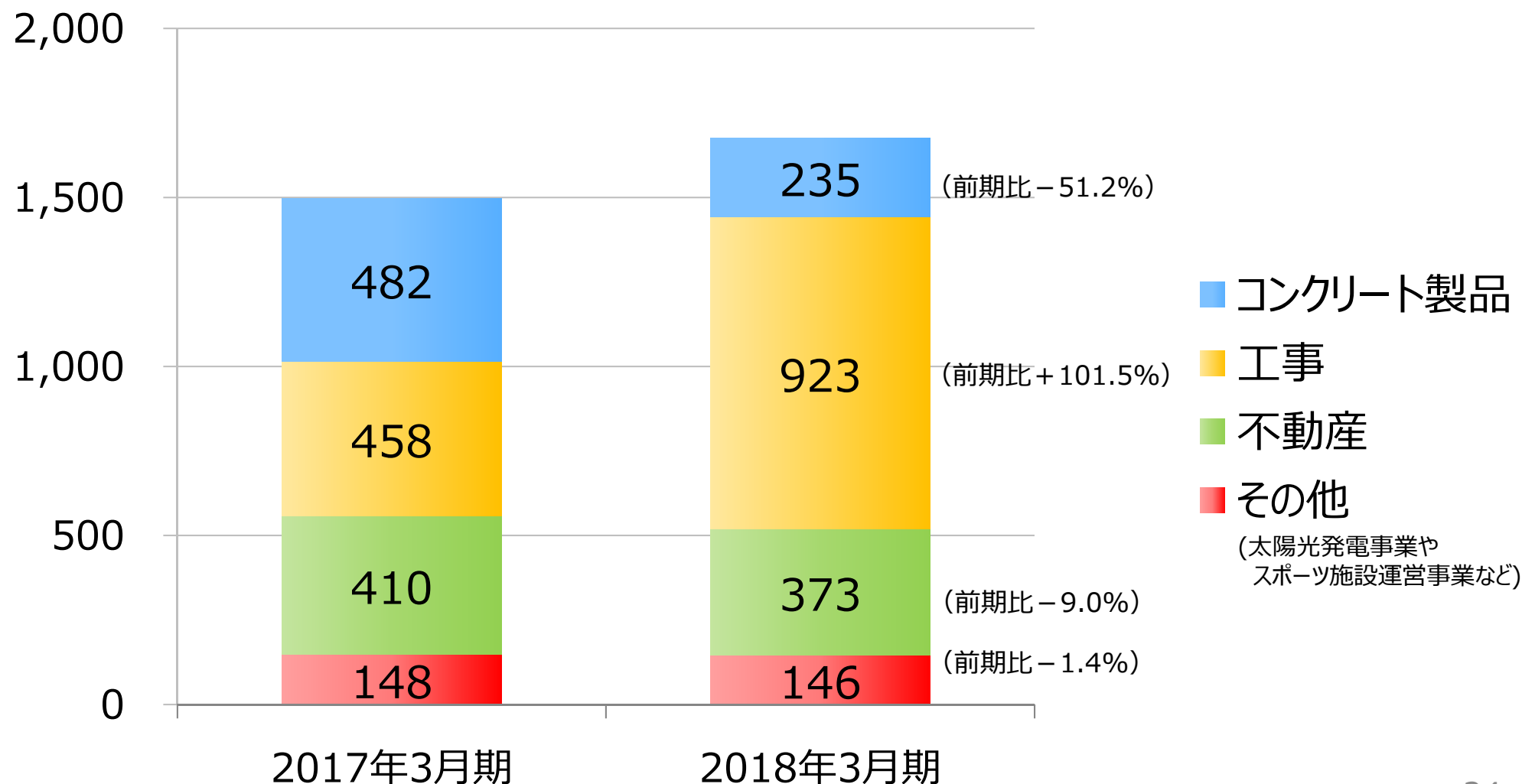
(単位：百万円)





## セグメント別営業利益

(単位：百万円)



1. 会社概要
2. 2018年3月期業績説明
- 3. 2019年3月期業績予想**
4. 新中期経営計画説明

# 2019年3月期業績予想

## 業績見通し

- パイル、工事関連の事業に関しては、横ばいで推移すると見込む
- 防災関連の需要拡大に伴うヒューム管関連の高付加価値製品で成長を見込む

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額	増減率
売上高	37,445	38,000	554	1.5%
営業利益	1,678	1,700	21	1.3%
経常利益	2,211	2,300	88	4.0%
当期純利益 <sup>(※)</sup>	1,651	1,700	48	2.9%

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

1. 会社概要
2. 2018年3月期業績説明
3. 2019年3月期業績予想
4. **新中期経営計画説明**

# 前中期経営計画の振り返り

主力のパイル事業、ヒューム管事業、下水道関連事業の持続的成長を図るとともに、セグメントおよびプレキャスト製品の事業基盤を強化。また、アジア地域における技術供与体制を強化

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
売上高	33,750	32,072	37,445
営業利益	1,894	1,498	1,678
経常利益	2,326	1,958	2,211
当期純利益(※)	1,802	1,383	1,651

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

パイル事業では、中掘工法で業界No.1の支持力を誇るNew-STJ-Ⅱ工法を関西地区で初めて施工。湾岸地区で優位性のある中掘工法の営業体制を確立



熊谷工場にセグメント、プレキャスト製品専用工場を新設

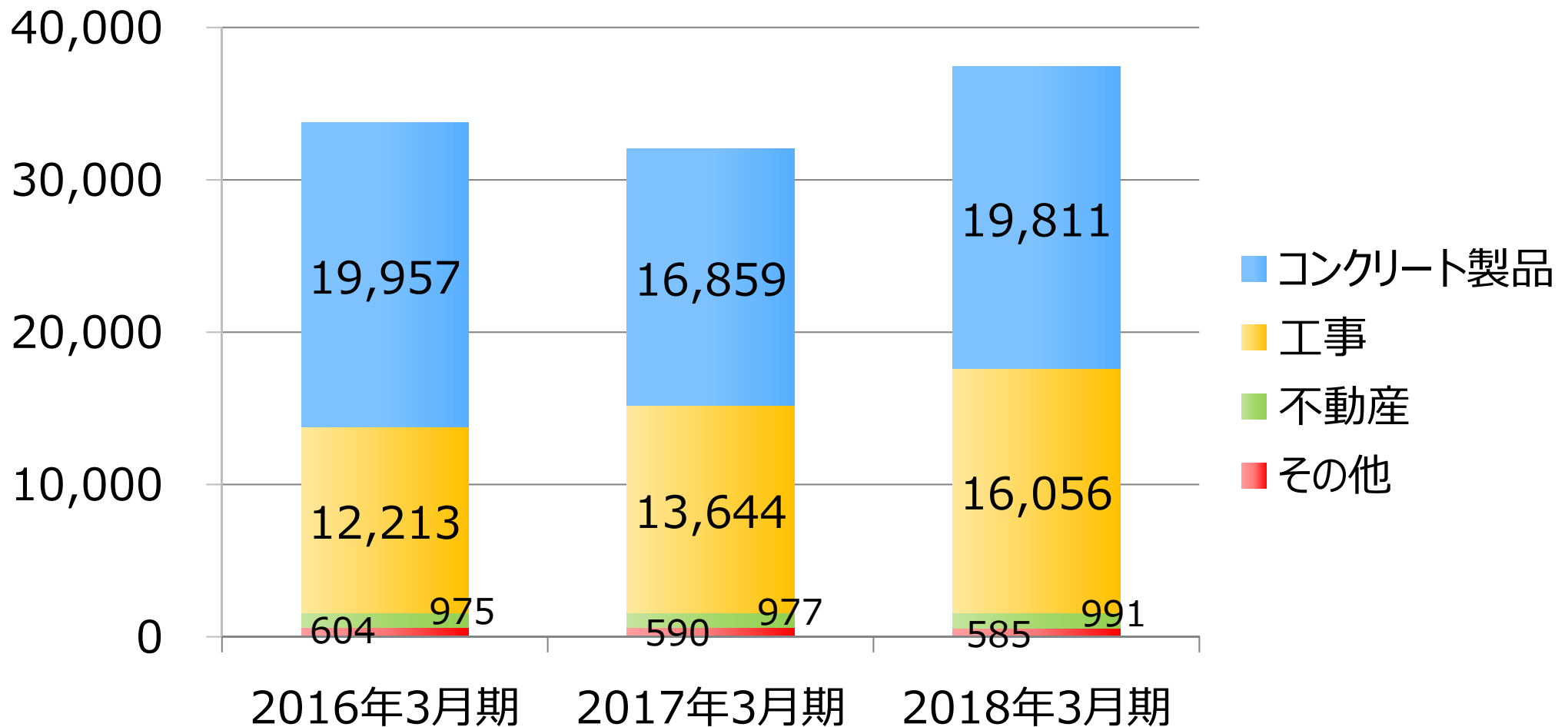
その他全国4工場でセグメント生産体制構築

NEXCO3社の公募した「車線区分柵」の技術提案で、選定技術に選出。道路部門の拡販体制強化。※協会を代表して当社が提案

# 前中期経営計画の振り返り(業績推移)

売上高は過去最高を更新

主力のコンクリート製品事業、工事業について増収を達成



- 建設現場の担い手不足からプレキャスト製品需要が期待される他、防災関連需要やインフラ更新需要はほぼ堅調に推移すると期待できる
- 一方、東京五輪関連の特需が無くなる他、人口減を背景とする需要動向など楽観視できないと予想

五輪特需後は不透明

総人口減少、高齢化進展

防災需要期待（官民連携による浸水対策の推進）

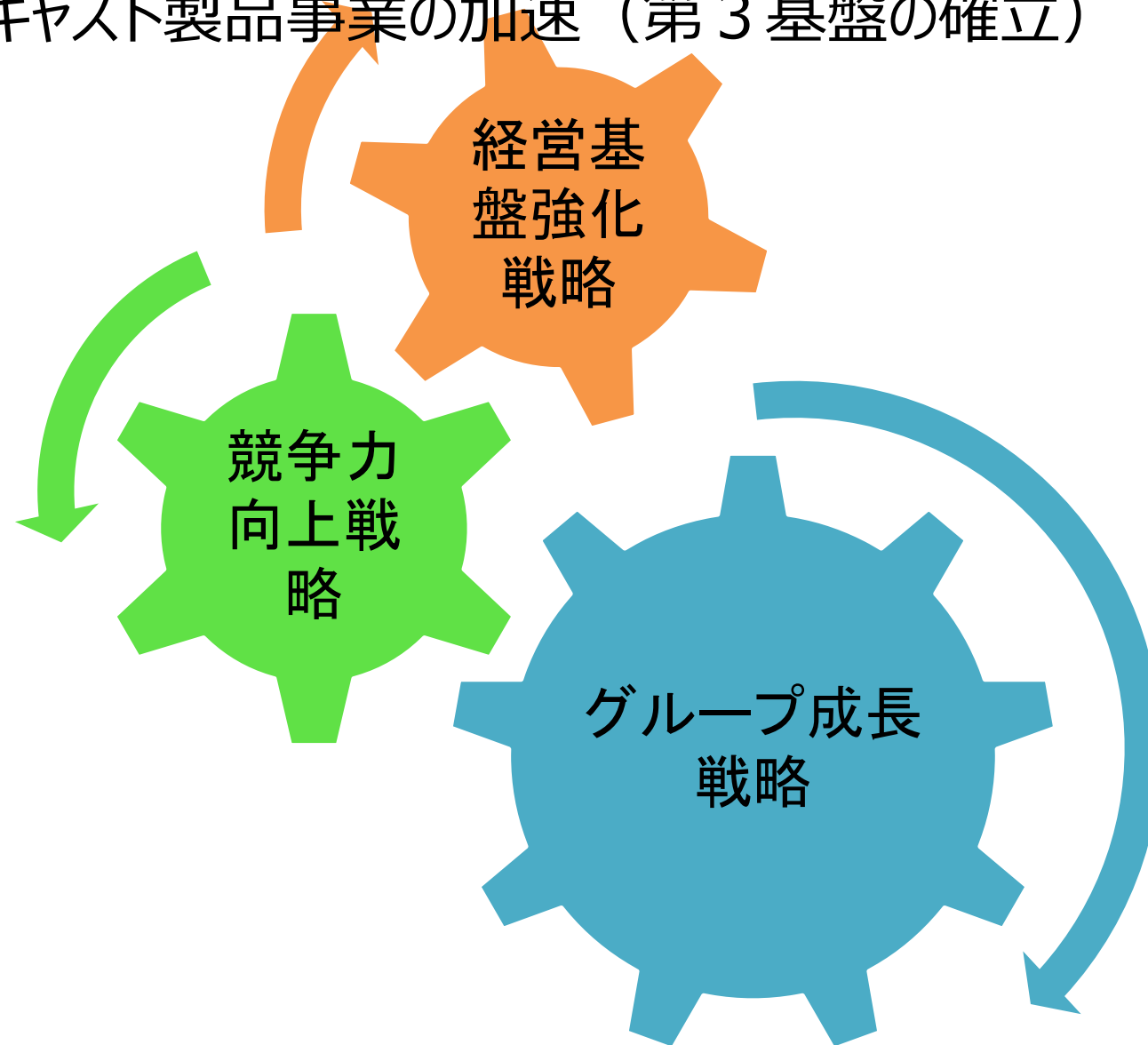
社会インフラの老朽化（施設の改築更新）

建設現場の担い手不足

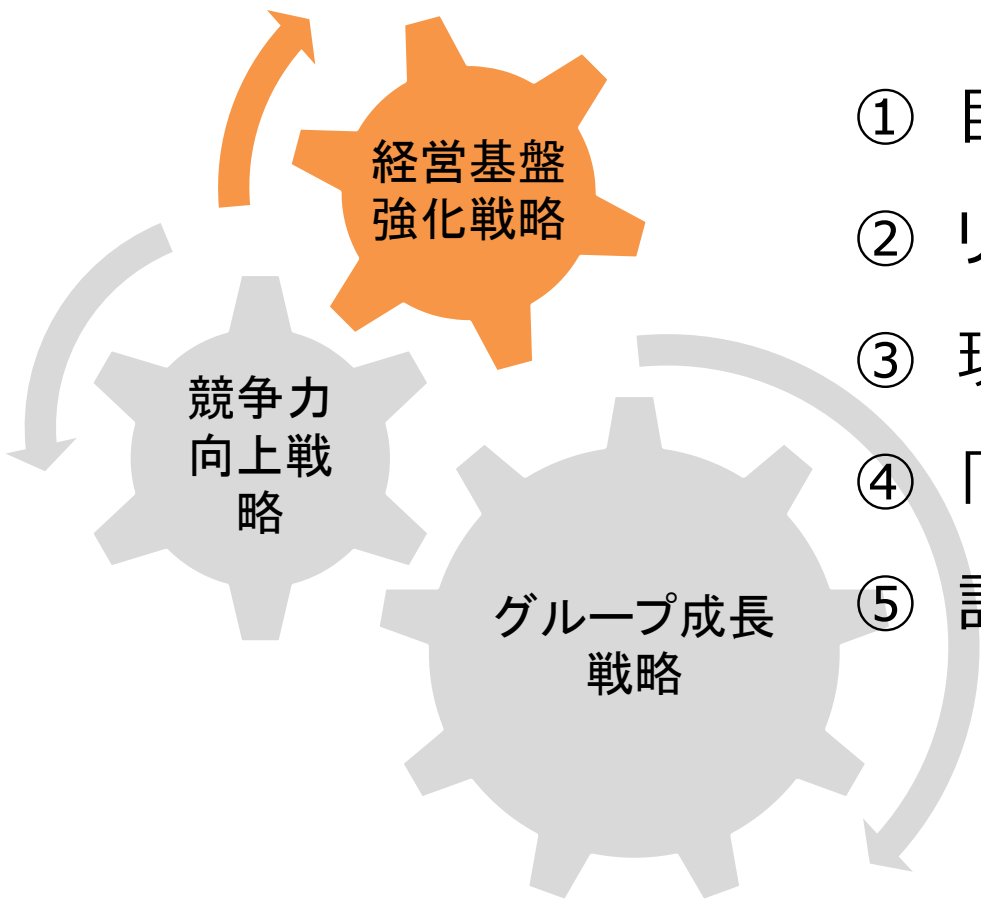
総合コンクリート製品メーカーである

当社の強み発揮

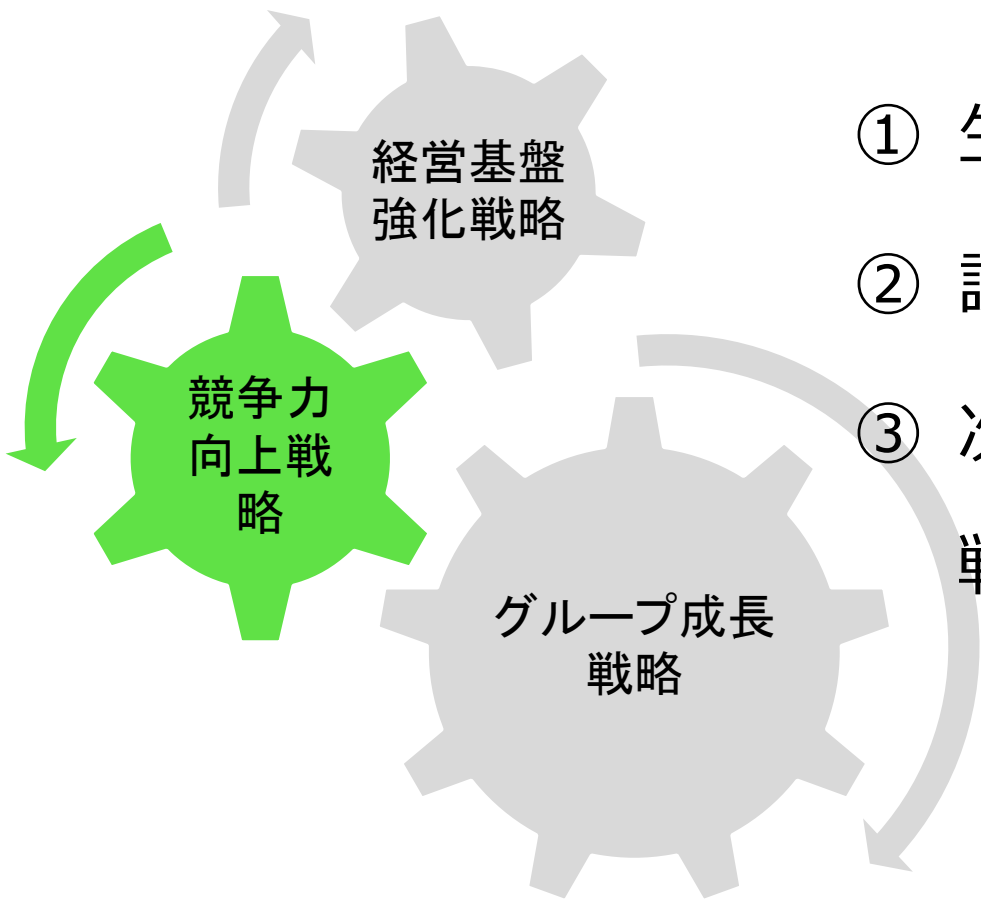
- パイルとヒューム管の充実
- 付加価値プレキャスト製品事業の加速（第3基盤の確立）



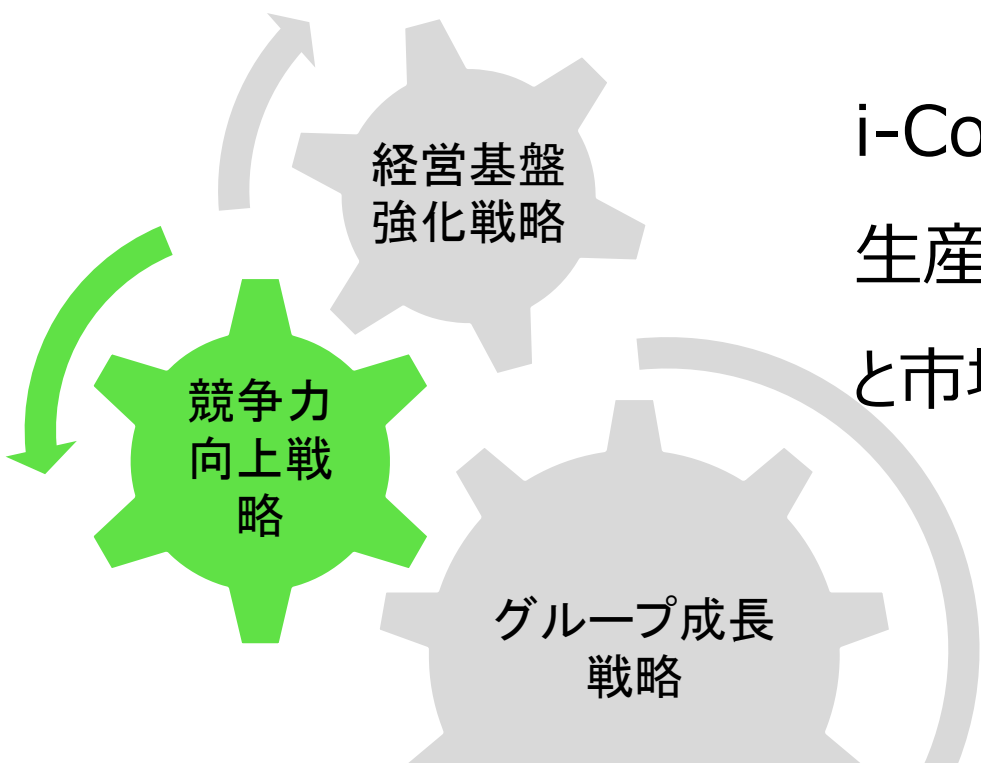




- ① 目標管理機能の強化
- ② リスク管理体制の強化
- ③ 現場力の強化
- ④ 「見える化」による経営管理基盤の強化
- ⑤ 計画的な人材育成、教育の強化



- ① 生産設備の戦略的な改善
- ② 調達、工事体制の戦略的な取組み
- ③ 次世代生産管理設備、工事管理設備の戦略的な取組み



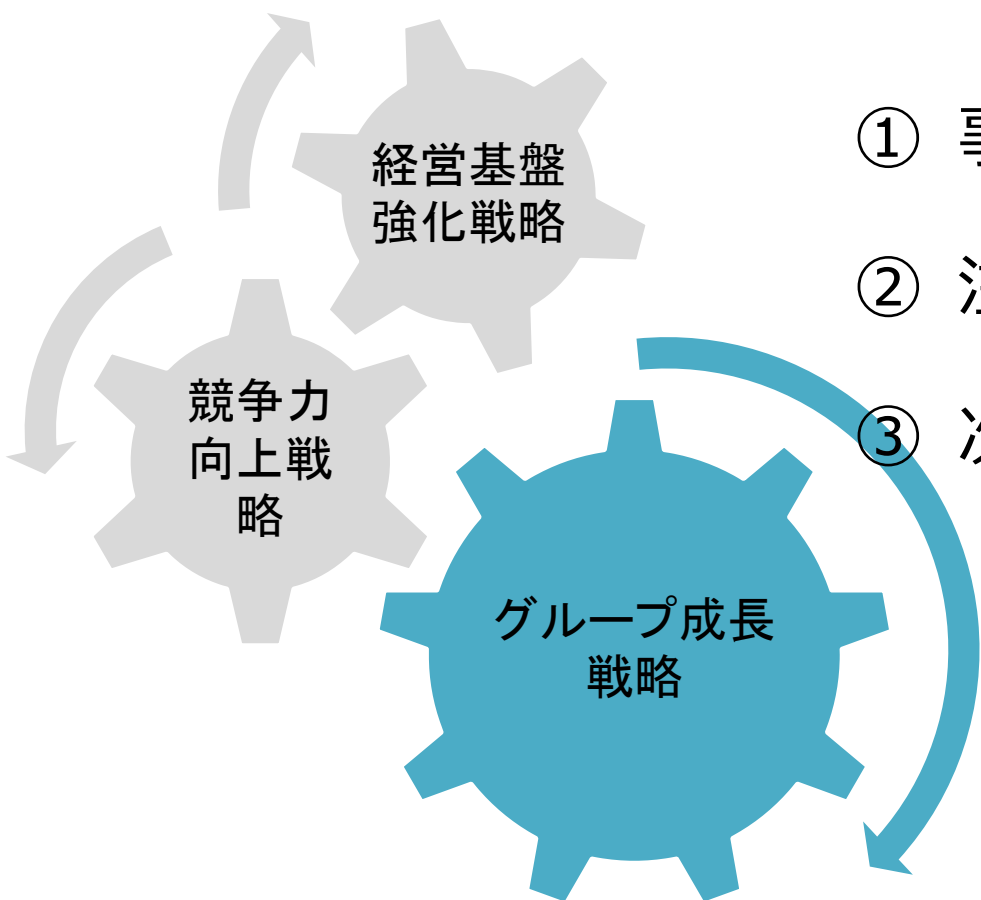
i-Construction、BIM/CIMなど、建設現場の生産性向上に対応するための技術開発の加速化と市場開拓の促進



施工管理装置

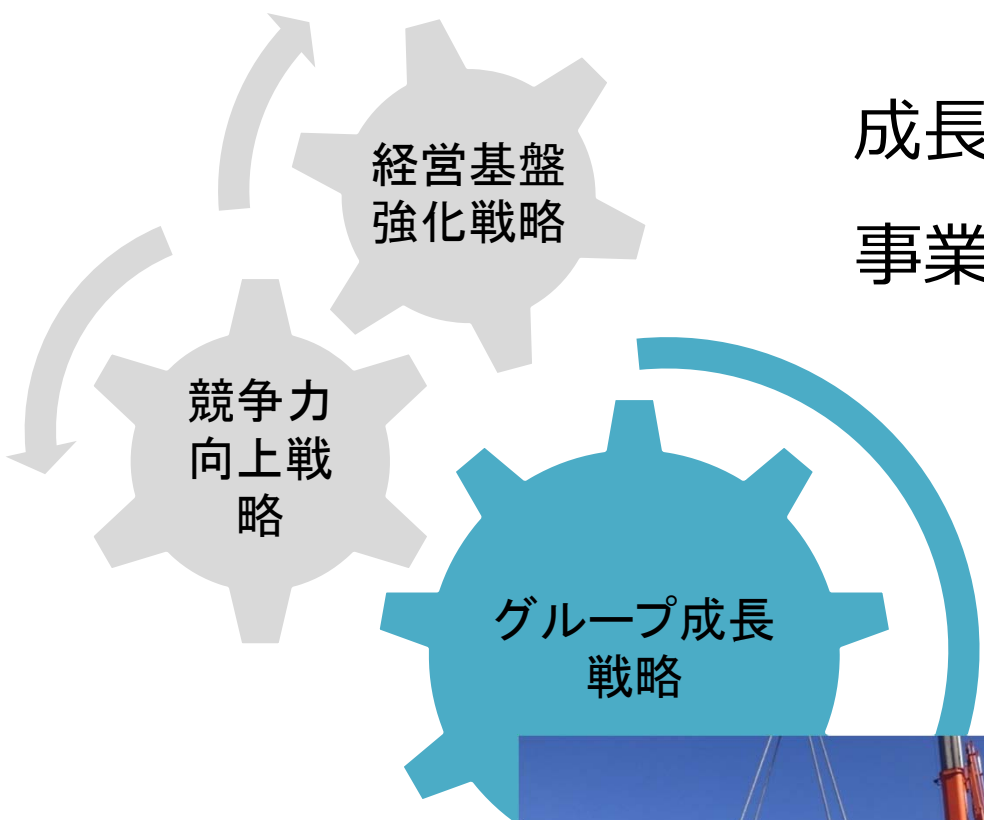


スマートフォンを活用した施工管理



- ① 事業領域拡大への戦略的な取組み
- ② 注力事業への戦略的な取組み
- ③ 次世代製品、工法開発の戦略的な取組み

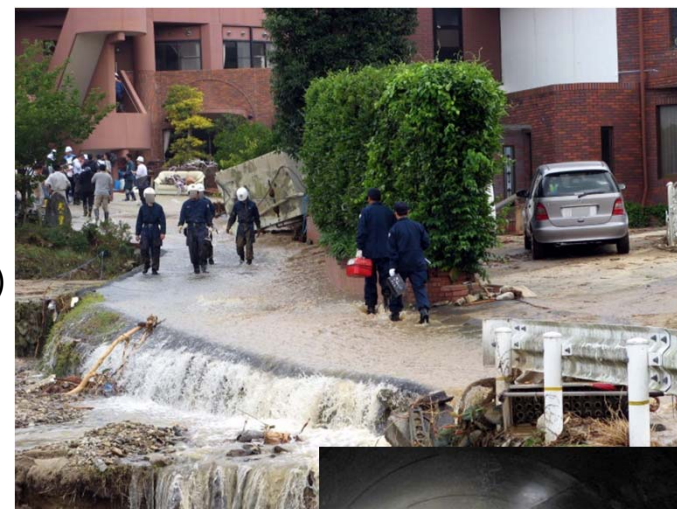
# 事業領域の拡大



## 成長牽引となる浸水対策事業、高速道路更新事業の拡大を図る

<水害対策市場規模>  
3,927億円/年

(平成30年度  
国土交通省予算より)



<道路整備市場規模>  
3兆8,378億円/年

(平成30年度  
国土交通省予算より)



PGF (プレキャストガードフェンス)



貯留管 (セグメント)

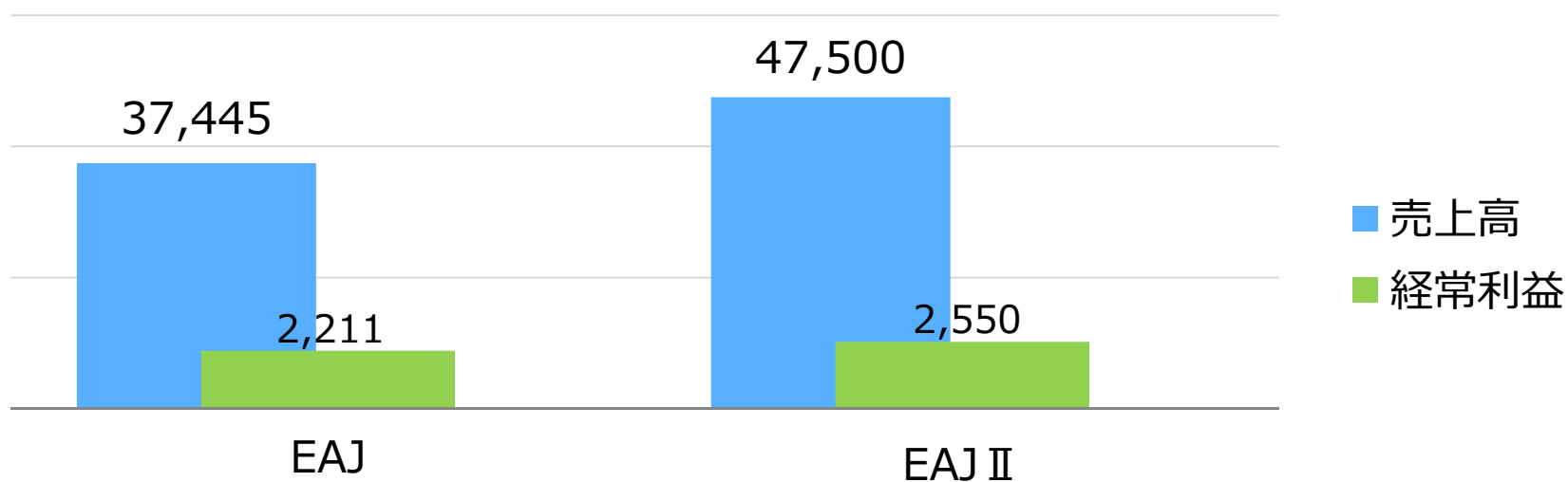
# Evolution All Japan IIの業績目標



(連結、単位：百万円)

	EAJ最終年度実績 (2016年3月期～2018年3月期)	EAJ II 最終年度目標 (2019年3月期～2021年3月期)
売上高	37,445	47,500
経常利益	2,211	2,550
自己資本経常利益率	7.3%	7.5%

(単位：百万円)



	EAJ最終年度実績 (2016年3月期 ~ 2018年3月期)	EAJ II 最終年度目標 (2019年3月期 ~ 2021年3月期)
DOE (純資産配当率)	1.4%	2.5%

日本ヒュームグループは当中期経営計画に沿って、安定的な配当を目指してまいります。

また、自己株式取得を推進し、総合的な株主還元の充実に努めてまいります。

安全・安心な社会づくりに貢献する。  
社会や顧客の信頼を得て、安定的な利益と持続的成長へ



日本初のヒューム管



マンホール隆起抑制状況  
(東日本大震災発生時 東京都江東区)





NIPPON HUME  
Group

【将来に関する記述等について】

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。